

わたしの愛唱讃美歌

その6

ご入居者様の愛唱讃美歌を紹介するシリーズの第6回目です。
好きな讃美歌にまつわる思い出を伺ってまいります。

豊田 江美様 (南山教会)



讃美歌(1954年版) 298番

やすかれ、わがこころよ、
主イエスは ともにいます。
いたみも 苦しみをも
おおしく 忍び耐えよ。
主イエスの ともにませば、
たええぬ 悩みはなし。

私にはこの秋95歳になる兄がいます。その兄がわたしより2年先にメソジスト系の幼稚園に入園して、毎日こども讃美歌を歌うので私も入園前に覚えてしまいました。今も電話や手紙でこども讃美歌を懐かしんでおります。「ブレイズヒム、ブレイズヒム、オニゲタチウウレン」と英語の讃美歌まで意味も解らずに歌っておりましたが、後日「朝起きたら神を讃えなさい。」という意味であることが解りました。

小学校を出ると私は金城女子専門学校附属高等女学部に入学して名古屋教会の中学科に通うようになりました。学校でも教会でも沢山の讃美歌を覚えて好きな讃美歌もたくさん出来ました。いずれも旧讃美歌ですが、受洗して本当の平安を得たいと望むようになった時に歌った「いさおなきわれを」とか、AHIの創立者の川原啓美兄がその決意をされるきっかけになった集まりの後で一緒に繰り返し歌った「主にのみ十字架を」などで、愛唱歌を決めかねていましたが、ある方の誕生祝に5~6人でその方の愛唱歌を練習してテープに録音して贈ってからそれが自分自身の愛唱歌になりました。

それが54年版の298番です。原曲はシベリウス作曲の「フィンランディア」と聞いております。

いつも主が共にいてくださることを忘れずに、平安に残り少なくなったこの世の旅路を歩みたいと願っております。



重野 了子様 (日本福音ルーテル拳母教会)



讃美歌(1954年版) 454番

- うるわしき朝も
しずかなる夜も
たべもの着物も
くださる神さま。
- わがまますてて
ひとびとを愛し
この日のつとめを
なさしめたまえや。

もう75年も昔の話になりますが、私は長野県のルーテル飯田幼稚園の園児でした。フィンランドミッションの協力で建てられた幼稚園で、真っ白いエプロンの園服を着て広い園庭を駆け回る、元気で少し気の強い子どもでした。

園庭の一部が竹林になっていて、春になると土から顔を出す竹の子探しに夢中になっていました。砂場やブランコで遊んでいる時に空襲警報が鳴ると、先生にうながされて暗い防空壕に飛び込み飛行機の音に恐れる時代でした。

新しく入園して来た、細面でちょっと美少年だった男の子と喧嘩になったことがありました。父がルーテル飯田教会の牧師で幼稚園の園長をしていたこともあって、少し傲慢になっていたのだ、と思います。その時、いつも歌っていた「こどもさんびか」の歌詞、「わがまますてて…ひとびとを愛し…」の言葉に気が付いて、幼ころに「『わがまますてて』を捨てなくてはいいけない!」と思いました。

80歳になった今も幼稚園時代の讃美歌が好きで、知らず知らずのうちに口ずさんでいます。今の「こどもさんびか」では「きよいあさあけて…」と変わっていますが、この「うるわしき朝も…」の歌詞には、人生の基本が単純明快に歌われていると思います。当たり前のように思っている日常が、よく考えると当たり前のことではなく、どれもこれも神様の限りない賜物であることに気づかされます。

これからも、ここ「まきば」で、この「こどもさんびか」にある歌詞に心を留めつつ、信仰生活を続けて行きたいと願っています。